

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2014年7月1日 130号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ基地、パクー養殖池における管理作業。円内は、報告する中田所長

中田実レダ基地所長が活動報告

六月十五日、川崎市の大山ふるさと館において、レダ基地から一時帰国している中田所長の報告会がありました。いつものように誠実感に満ちた報告に、満場の支援者たちも熱心に聴き入り、心の絆を新にする貴重な時間を持ちました。（以下、報告の要旨）

皆様、いつも篤いご支援をありがとうございます。今年の稚魚放流式典には、フランコ前大統領夫妻をはじめとする国会議員、学者、N G O、マスコミ取材班等から参加希望が多数寄せられました。レダ基地に大型航空機の発着できる飛行場があつたなら、もっと多くのV I Pが訪れることができたでしよう。

フランコ前大統領が、「先回は、大統領としての義務感から来ましたが、今回は自ら來たくて來ました」と語られたように、私たちの活動に感銘し、見たい、知りたいという人々が急増しました。私たちも「すべて見せます」という態勢を敷き、養殖、養豚、農業その他のプロジェクトの現場を取材してもらいました。それをパラグアイの全国紙が報道、また二つのテレビ局が「あのチャコにパライソ（楽園）があつた！」と全国ネットで放映してくれました。日系ジャーナル紙も一面で大きく報じてくれました。こうして近隣の村人たちが感謝し、市長さんたちが感謝し、大統領が感謝してくれるような機運に至つたことも、支援者の皆様に報告し、改めて感謝いたします。

パラグアイ共和国は水産資源の回復のため、養殖産業に力を入れようとしています。稚魚の人工孵化には、アスンシオン大学総長、獣医学部長はじめ、教授陣による熱意のこもつた協力があり、私たちとは、お互いに敬い、誇り合える関係が築かれています。

私たちも、自然こそは最高の学府だと実感します。不透明な水に象徴される如く、未来の見えにくい環境条件、不確実性の中での地道な研究を通し、正直な生き物たちの、眞の主人になることを学ばされました。魚や豚の目線からその幸せを考えた養殖と養豚を進めた結果、レダ産のパクーと豚は、肉質がよく、美味しいとの評判から需要が高まり、現在は生産が追いつかないほどです。今後も人と自然とが相互に感謝するような、生きとし生けるもの福地建設に、いつそう努力を傾け取り組んでまいります。

牧童家屋建設と境界フェンス作り

人口密度が極めて低く、面積の広大なチヤコ地方。所有地の境界は、地図上では明らかでも、現場にはフェンスを設置することが重要です。今後の土地管理を進めるために、現在レダ基地の上流12Km地点のプエルト・ヌエボ(Puerto Nuevo)に牧童家屋を建設しています。



現在プエルト・ヌエボに建設中の牧童家屋 (5月31日撮影)

パラグアイ川の水位が上昇

日本で梅雨入り早々各地で大雨が降ったのと同じ頃、レダ基地も豪雨に見舞われました。し

フエンスに関してはエスペランサとの境界線4Kmをまず造ることで合意して、今カシケ(住民の長)を責任者として数人が作業現場で働いています。境界線のレダ側5m、エスペランサ側二mの範囲を整地し、そこに境界フェンスを造っています。現場に行くにはエスペランサ側からのみ可能で、馬でないと近づけません。時間を見て行く予定です。(佐野・伊達記)



アスンシオン大洪水

六月上旬の豪雨で、パラグアイ川と、首都アスンシオンで約15万人が避難。カルテス大統領はすでに、避難支援金に充てる資金を準備させたと伝えられています。(写真: AFPBB News)

資材は、レンガ一万七千個、セメント八十袋、石灰八十袋、砂利百袋、砂六百袋、材木、鉄筋、トタン板など様々に必要です。六月半ばにもう一度その船が来るのでそれで不足分のレンガ、砂利、砂などを運ばねばなりません。七月下旬には完全に出来上がると思います。

プエルト・ヌエボにおける家造りは、雨天で難航しながらも着実に進んでおります。二週間ほどかけて五ヘクタールぐらいを整地し、その中央に土を盛り、土台を上げて家屋を建設して

います。家の横には、雨水を貯める貯水タンクの設置も準備されています。問題は、現在ヌエボの土地に水が上がっているために陸路では近づけず、ボートでしか行きなくなっていることです。そのために、建設資材の運搬に四苦八苦しています。「トレス・エルマーノス」という名の小さな船が食料品を持つて月一回来るのですが、その船が来る時をうまく利用して大きな資材を運ぶようになっています。また上山氏の全面的協力を得て、ボートを何度もそこまで往復させています。川から現場まで、多くの水草があつて、それをかきわけながら入つて行くのが大変でした。

資材は、レンガ一万七千個、セメント八十袋、石灰八十袋、砂利百袋、砂六百袋、材木、鉄筋、トタン板など様々に必要です。六月半ばにもう一度その船が来るのでそれで不足分のレンガ、砂利、砂などを運ばねばなりません。七月下旬には完全に出来上がると思います。



(伊達記)



かに逆流して来るのを防ぐ為に、排水溝に高いパイプを立ててその先で排水溝を塞ぎ、浸水を防ぐようになります。もちろん下水は溜まって行きますからポンプを使い、川に汲み出すことになります。

左の写真は、水位の上がった川から排水溝を通じて、川水が施設内に逆流して来るのを防ぐ為に、排水溝に高いパイプを立ててその先で排水溝を塞ぎ、浸水を防ぐようになります。レダ基地では浸水を防ぐ作業、道路の修復工事、護岸工事などに奮闘中。また道路の冠水で牛や豚の放牧地への行き来に車両が使えなくなったり、ボートを使って飼料や食料を運んでいます。

★水落勝氏にインタビュー

水落勝氏（61）



木工作業をする水落氏（青いシャツ）

は、二月十九日にレダ基地に赴任して以来、現地で逞しく活躍し続けています。稚魚放流式では、放流の舞台となつた川岸の桟橋を苦労して作られました。また、研修所の窓枠の修理とか、色々な部屋の網戸の設置、川岸の餌小屋の解体などをされて、新たな設備の準備にも取り組んでいます。

（レダの印象は？）自然の美しさ、特に朝夕の雲の変化には感動以外の何者でもありません。

（レダで苦心したことは？）まず困つたのは、最初のレダの暑さで、正直堪えました。そして必要な資材が思つたように手に入らなくて、スマーズな作業が出来ないことです。

（今後の抱負は？）ソーラーパネルの家や、現地の材料を使つたかやぶきの家を作つてみたい。

（日本の皆様へひと言）自分の好きな写真も興味深いものが撮れるし、結構楽しくやつています。自分の経験を生かしてレダのプロジェクトに貢献できるチャンスなので、日本の壮年の皆さんにも来てほしいです。

グスタボ氏の武道教室が好評



ディアナの学校で武道を教えるグスタボ氏（黒帯）

アスンシオンのサンセバスチヤン大学（学長がレダでの放流式に参加）で人格教育などの講師をしているグスタボ氏がレダ基地と協力して、チヤコ地方で武道教室を始めました。六月四日、最初にバイアネグラの高校で、グスタボ氏が武道の目的について説明をし、その後校庭で実践しました。準備体操、礼の仕方や基本的な型、声の出し方などを教え、また組み手も教えていました。多くの生徒たちや先生方も周りで見学していて、終了後もとても喜んでハイテンションになつていました。

次に十一時から、海軍の指令本部に行きました。ここも二十名ぐらいの青年海兵が集まつていました。まず武道に対する基本的な説明をし、その後に簡単な護身術的なものを披露しました。こういう学習をする機会はないので、みんな興味深く楽しそうに取り組んでいました。

午後はディアナの先住民村に行きました。三十名ぐらいの中学生三年生の生徒たちです。ここでは先生方も積極的に協力。非常に盛り上がりました。最後に、今後も続けたいかと尋ねたら、全員が大声で「ハイ」と答えていました。（佐野記）

異常気象

今年は異常気象が大きなテーマです。例年、六月下旬ぐらいで水位の上昇は止まるのですが、今年は雨が降り続くため先行きが危惧されます。今



川の水位上昇で浸水（レダ基地第二農場で撮影）

年間降雨量の一〇〇〇mmを超え、六月十七日現在一一六二mmです。すでに道路がずたずたに寸断されています。

さらに定期船アキダバンに運行管理局から航行禁止令が出ました。船体が老朽化していく危険という理由です。地元の大反発があり、三ヶ月処置が延期されました。陸路が使えず船もなければ、アルトパラグアイ州は完全に陸の孤島と化してしまいます。オリンポ市も排水溝を閉じたため、市内に溜まる水を大型ポンプで辛うじて排水しています。先日は一〇〇mmを超える雨が降り、どこの家も水浸しだったそうです。レダも同様で、上山氏が数台のポンプを用いて必死に排水しています。現在、アルトパラグアイ州内の道路は寸断され、復旧のめどは立つていません。内陸のトロパンペ、マリア・アウシリアドーラ、サン・カルロスなど各村には、州政府が主体となつてヘリコプターで食料が緊急搬送されました。とにかく、雨が早く止んで乾季が来てほしいというのが皆の共通した願いです。（佐野記）

柴沼事務局長、日本各地において第二回パケー放流式典報告会を行う。



4月25日にレダ基地で行われた第2回稚魚放流式典を終え、日本に帰国し、全国の会員はじめ支援をして下さった方への報告を行った。東京、神奈川、仙台、一ノ関、名古屋、大阪、福岡、徳島、高松にて。

第14回国際協力青年ボランティア隊

期 間：2014年8月25日（月）～9月10日（水）

8/24（日）：オリエンテーション・研修を行います。8/25成田発

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域、パラグアイ東部地域

活動内容：サン・カルロス村とディアナ村で学校の修復と共同植樹活動及び文化交流、

レダにて奉仕活動、自然探訪、乗馬、釣り体験、パラグアイ東部での植樹活動とイグアスの滝訪問



一般社団法人
南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話 044-829-2821
FAX 044-829-2820

会費納入 郵便口座
10180-77680471

Eメール： office@asd-nsa.jp
ホームページ： <http://www.asd-nsa.jp>

お便り歓迎！あて先は、office@asd-nsa.jp へどうぞ。

地球家族として、自然を守りましょう

一般社団法人
南北米福地開発協会会員募集中

南米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアー、ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。
会費は月500円です。

毎月、パンタナール通信をお送りいたします。また、各種のセミナー、エコツアー等へのご案内をいたします。